南相馬市立鹿島中学校スローガン　「創造」「秀・和」「不屈」　～挨拶は　心の絆　挨拶で　心を磨く～

The sky is the limit.

車輪梅

＜鹿島中学校　学校だより＞

【令和2年3月号】

《重点目標》　『自立した品格を目指し　今何をすべきか考え　実行しよう』

第３７回卒業証書授与式を挙行しました！

３月１３日(金)本校体育館において令和元年度第37回卒業証書授与式を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、限られた諸条件のもと教職員、在校生で創意工夫し、心を込めて準備を進め、当日は教職員、保護者の皆様で卒業生の門出を祝福しました。

式次第

・卒業生入場（吹奏楽部が録音した演奏で）
1 開式のことば
2 国歌斉唱（教職員の伴奏で）
3 学事報告
4 卒業証書授与
5 校長式辞
6 教育委員会挨拶（要項の印刷物で）
7 来賓祝辞（要項の印刷物で）
8 祝電披露（掲示、同封の印刷物で）
9 送辞（在校生代表の動画で）
10 答辞
11 式歌
12 校歌斉唱（教職員の伴奏で）
13 閉式のことば
・卒業生退場（吹奏楽部が録音した演奏で）

＜式辞抜粋＞

９年前の東日本大震災や原発事故の影響により、様々な形で義務教育のスタートを切った皆さんの晴れの門出を祝うべく準備を進めてきた卒業式は、３月を目前にして、新型コロナウイルス感染予防のため、規模を縮小しての実施を決定せざるをえませんでした。しかし、皆さんは、「卒業式がどのような形になろうと、自分たちを決して可哀想だとは思わない。残された時間の中で、この鹿島中学校での３年間がいかに充実したものであったかを先生方や在校生に伝えたい。」と熱く語ってくれました。そして、学校最終日に、みなさんが思いをこめて歌ってくれた、あの歌声を決して忘れることはないでしょう。

本校では、「自分自身が置かれた状況を様々な視点から分析し、本質を見極め、自ら適切な行動をとること」を「品格」と呼び、目指すべき姿として重点目標に掲げています。あの時の皆さんの姿に、理想とするべき姿を見出すことができたように思います。

私達のふるさとは、あの震災から９年が経過してもなお、復興は道半ばです。また、私たちを取り巻く環境は、新型ウイルス感染拡大や自然災害等の地球規模のリスクに直面しており、世界は少子高齢化の進行やグローバル化に伴う国際競争の激化、ＡＩ・人口知能の台頭など、先が全く予期できない激動の時代に突入しました。そのような時代を生き抜くために求められるカは、日々、学校生活の中で皆さんが発揮してきた、様々な人々と協力しながら、主体性をもって道を切り拓いていく力、どんな状況でも自分で考えて問題を解決していく力です。３年間の学びで身に付けた力の上に、これからの新しい世界での学びを通して知識と経験を積み重ね、さらに品格を磨き、心豊かにたくましく成長していくことを願ってやみません。

「いちばん大切なことは目に見えない」これは、フランスの作家サン＝テグジュペリの書いた『星の王子さま』の一節に出てくる言葉です。「仲間と協力してやりきったときの充実感」「難しい課題に挑み解決できたときの喜び」「いつも見守り支えてくれた先生方」「慕ってくれついてきてくれた後輩達」そして何より「今日まで育ててくださったお家の方々の愛情やご苦労」…私達は目に見えるものばかりに心を奪われてしまいがちですが、よく考えてみると、目に見えない多くのものに支えられていることに気付きます。時には立ち止まり、「本当に大切なもの」をじっくり考えてください。自分の頭で考え、心で感じ、ものごとの本質・真実を見定めていってください。